

編集後記

2025年6月吉日

編集委員長 竹下盛重

今年の冬は寒さが少し厳しかった状態でしたが、春は短く、暑い夏がやってきました。本年も急激な国際情勢変革の中、日本も物価高になり、生活への圧迫感を感じます。また、医療機器の価格高騰や医療費の削減があり、各病院が経営困難を感じています。この様な中でも病院病理部、病理診断、細胞診部門は比較的の冷静に仕事が出来、研究も出来るところかと思います。研究マインドは、病院にとっても大きな利益であり、貢献と思います。

さて、本年も皆様より本学会誌に、教育講演1題、医療安全講演1題、総説2題、原著5題、症例報告7題、短報4題を投稿いただきました。ありがとうございます。今回の特徴は中皮腫に対する原著が3題あり、活発な考察がされております。

この様にして少しづつ病態が解明されていくのだと思います。本学会誌の内容が臨床医に響き、患者様への対応や治療に繋がればやりがいも出てくると思います。病態解明が進むことは、即治療につながることもあり、患者様のクオリティオブライフ（QOL）が向上していくことになります。現在はターゲット療法、遺伝子治療、免疫調整薬等が急激に発展しており、病理、細胞診部門にたずさわる者もその治療効果を理解し、見守っていかないといけない状況と思われます。皆様の日々の努力と違いを見極めていく力が、今後も大切になると思いますが、その中の1つでも本雑誌に投稿いただければありがたいと思います。

後記：昨年度を持ちまして、九州中央病院退職に伴い緒方昌倫先生が本誌編集事務局長を退任いたしました。ここ約10年間、検査科技師長の激務の中、本誌の事務的な仕事（編集）を担っていただきました。多大なるお仕事に対し、感謝いたします。今後ともご指導ください。新たな編集事務局長には済生会福岡総合病院・病理診断科の佐藤真介先生に着任いただきました。既に行っていただていますが、多大なる事務的処理と若い観点からの提案をお願いしております。

日本臨床細胞学会九州連合会雑誌編集委員会

編集委員長	竹下 盛重
編集副委員長	西山 憲一
編集事務局長	佐藤 真介
編集担当役員	大石 善丈、大久保文彦、角谷 優子、田宮 貞史、土岐 尚之、林 博之
編集委員	碇 益代、今村 彰吾、内橋 和芳、宇野 大輔、大谷 博、緒方 昌倫、柿沼 廣邦、小材 和浩、 迫村 竜巳、佐藤勇一郎、関本 哉恵、寺戸 信芳、西中村恵輔、西山 尚子、南部 雅美、林 洋子、 東 美智代、松崎 晶子、丸田 淳子、山口 知彦、横山 俊朗、渡辺寿美子
査読委員	相島 慎一、安部 秀幸、有馬 信之、石原 明、稻田 千文、井上佳奈子、卜部 省悟、大久保文彦、 大城真理子、大塚 幸二、小田 義直、角谷 優子、加来 恒壽、柏村 正道、片渕 直、神尾多喜浩、 川越 俊典、川下さやか、河原 明彦、木戸 伸一、切田ゆかり、金城 貴夫、金城 満、黒瀬 大和、 小材 和浩、坂井 真一、佐藤 真介、塩田 拓也、島松 一秀、自見 厚郎、瑞慶覧陽子、駄阿 勉、 竹下 盛重、立山 敏広、田中 小夜、田中 義成、田宮 貞史、寺戸 信芳、土岐 尚之、中島 秀樹、 南部 雅美、西田 陽登、野元 三治、花牟禮富美雄、濱田 哲夫、林 透、林 洋子、東 美智代、 比嘉 讓、前田ゆかり、松田 勝也、松本 慎二、丸田 淳子、横山 俊朗

(50音順)